

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2026年8月4日放送分 東街道／木ノ下】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 前回ご紹介した連坊小路を東へ、仙台一高を過ぎて地下鉄薬師堂駅の方向に150mほど歩いた交差点からスタートです。
連坊小路と交わる南北の通りは、江戸時代に入り奥州街道が整備されるまでの主要な道筋「東街道」と推測されるルートの一つです。
そのため、通りを南に入った所にある辻標にも「東街道／木ノ下」と刻まれています。



- 辻標のもう片面「木ノ下」は、歌枕である宮城野を詠んだ和歌から来た地名です。
「みさぶらひ御笠(みかさ)と申せ宮城野の木の下露は雨にまされり」。
意味は「笠をお申し付けください、宮城野の木の下露は雨より濡れてしまいますから」といったところでしょうか。



- 今回その若林区木ノ下にある史跡「陸奥国分寺薬師堂」を訪ねました。茅葺屋根の仁王門をくぐる前に、皆さんは「陸奥国分寺」と「薬師堂」の関係というか違いを、きちんと説明できますか？ 元々の陸奥国分寺の境内に、御本尊の薬師如来像を祀ったお堂＝薬師堂という建物が後から建てられたのです。国分寺と、尼寺である国分尼寺は8世紀半ばの奈良時代、聖武天皇の命で全国に建立された寺院です。総本山は奈良の東大寺です。

中世以降、荒れ果てていた陸奥国分寺とその一帯を伊達政宗公が整備・再興しました。その際、旧講堂の跡地に建てられたのが薬師堂というわけです。つまり1200年前のお寺の跡に、400年前のお堂が建っているのです。

なお最近の研究では、仁王門内部の仁王像の製作年代が江戸時代より前の戦国時代に遡りそうだという事で、像を覆う仁王門の建造年代も完全には判明していないそうです。今後の研究で、何か新しい事が分かってくるかもしれませんね。

〈文・佐々木淳吾〉